

“主の祈り”

てん
天にまします われらの^{ちち}父よ。^{ねが}願わくは
みな
御名をあがめさせたまえ。御^{みくに}国を来た^らせ^{たまえ}。
みこころ
御心の天になるごとく 地にもな^させ^{たまえ}。
にちよう かに
われらの日用の糧^を 今日も与^{たまえ}。
われらに罪をおかす者を われらが^{ゆる}赦^すごとく われらの罪をも^{ゆる}赦^{した}まえ。
こころ
われらを^{こころ}試^みに会^{わせ}ず 悪より救^い出^{した}まえ。
さか
国と力と栄^えとは 限りなく なんじのものなればなり。アーメン。

(解説……この「主の祈り」は、1880年に英語から文語体に訳され、それ以来、現在に至るまで日本中の教会で広く使われているものです。内容は、マタイによる福音書6章9～13節とルカによる福音書11章2～4節にある、イエス・キリストが弟子たちに教えた祈りの言葉をもとに、古代教会において整えられたものです)